

郷土研究 伊丹公論

復刊 第24号
通巻 43号
年3回発行

発行所
伊丹市立図書館ことば蔵
〒664-0895
伊丹市宮ノ前3-17-14
☎072-784-8170
編集
伊丹公論編集委員会

現代人物 風景

コミュニケーション教育の指導者や絵本講師として、「ことば」の大切さを広める活動を続けている。

友人の紹介でラボ・パーティという民間のコミュニケーション教育団体の存在を知り、そのテューター(指導者)資格を取

得。昭和50年(1975)、自宅に「ラボ・中出パーティ」を開設した。

ラボ・パーティの対象は、0歳から社会人まで幅広く、日本語と英語で世界の文学や歌などに触れるほか、異年齢による

未来をつくる

ことばが子どもの



写真協力=西田写真館

ラボ・テューター・絵本講師 中出 素子さん

絵本講師養成講座を受講し絵本講師に。図書館などで子どもたちに読み聞かせをし、保護者対象の絵本講座や絵本に関するボランティア活動もしている。

「子どもたちが絵本で心を揺さぶられ、絵本を通していろんな体験をしながら目を輝かせている様子を見るのが好き。絵本を通じて子どもたちに勇気がわいてきたり、何かに興味を持つきっかけになったりすることが本当にうれしい」と中出さんは話す。

中出さんはことば蔵で昨年11月、「たゆまぬ平和への歩み」と題した絵本やパネルの展示会を開催。来館者からの感想に改めて絵本の力を感じた。今年11月にも、国際交流写真展や英語の絵本の展示を開催予定だ。

「絵本の大切さをもっとたくさんの人に知ってほしい。1日5分でもいいから、お父さんやお母さんが子どもに絵本を読んでもらってほしい」と中出さん。

絵本は片手間では読めない。絵本を読むための5分間は、子どものために集中するはずであり、その時間こそが大切なのだ。

豊かな想像力を与えてくれる絵本。久しぶりに手に取って、その魅力を味わってみてはいかがだろうか。